

楽しい催しがいっぱい

健康まつり2006

10月1日(日)午前10時～午後2時 代々木病院

くらしと健康

発行 医療法人財団 東京勤労者医療会 1部60円

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-30-7

T E L (3404) 7661

E-mail address yo_sosiki@tokyo-kinikai.com

友の会会員は会費に購読料がふくまれています。



歌詞をみながら打ち合わせ (入院患者さんのお楽しみ会)

代々木病院 療養病棟が障害 者施設入院料一 般病棟へ 8月1日

4階療養病棟
がとりくんで
きたもの

療養病棟削減
と診療報酬の
改定

これまで代々木病院の療養病棟(4階病棟)は、病気の回復期にリハビリテーションや介護を提供することで患者さんが、ご自宅に復帰されることを支援する役割を担ってきました。毎月40人前後の入院があり、ほとんどの患者さんがご自宅に戻られています。

厚労省は現在の療養病床を38万床から15万床に削減することを前に、療養病棟に対して、大幅な診療報酬の削減を強行しました。療養病棟を経営的に追いつめ自然消滅をねらっています。今回の制度改定は療養病床に入院中の患者さんひとりひとりを医療区分で3段階に分類しました。

簡単に言えば、医療区分2や3の厚労省が規定する「医療行為が多い」患者さんに比べ、医療区分1だとそれが約半分になるように決められて、病院にとっては事実上経営が立ちゆかないしくみが作られたのです。リハビリで言えば、30日までが医療区分2ですが、それ以降は医療区分1と決められました。

この改定で、入院もできない、施設にも入れない、家にも帰れない、多くの「介護難民」が発生するのではないかと懸念が出ています。代々木病院ではこうした事態が発生しないよう署名活動などの運動とあわせて、病棟のあり方の検討をすすめてきました。

代々木病院の
療養病棟のこ
れから

「障害者施設病棟」
へ転換

代々木病院では、これまで療養病棟(4階病棟)を「障害者施設入院料一般病棟」に8月1日から転換することになりました。新しい4階病棟の特徴は、急性期の治療が終わった後に、リハビリテーションを積極的にを行い、患者さんがご自宅に帰ってご自宅で過ごせることを目標にしていることです。したがって、これまでの療養病棟の理念や考え方をふまえて、それをいっそう発

展させる内容にしたとご理解いただいて良いかと思えます。現在、代々木病院には、訪問リハビリ等には携わっている者も含めて15人の理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が在籍しています。こうしたリハビリスタッフと医師をはじめ看護師、介護福祉士のチーム医療によって、より充実したリハビリ医療を提供できるよう準備をすすめています。

また、看護師の体制についても、従来の患者数20人につき看護師1人の体制(看護師実数9)から患者数15人につき看護師1人の体制(看護師数16)というように厚くすることにしました。

より充実したリハビリ 医療をめざします

入院の対象と
なる患者さん

入院にあたっては代々木病院の一般急性期病棟から転換される場合と、他の医療機関に入院中の方で急性期の治療を終えて、リハビリテーションと自宅復帰が目標の患者さんも積極的に受け入れてまいります。

もちろん、普段、ご家族の介護に支えられてご自宅で療養されている高齢者の方が廃用症候群(身体を使わないことで機能が低下する状態)等を改善するための支援が必要になった場合にも入院の対

象となります。

反対に、心臓の疾患、感染症、身体的に不安定な状態等で精密検査や治療が必要な患者さんは、障害者施設病棟の4階ではなく、3階か5階の一般急性期病棟に入院していたくこととなります。

入院のご希望にあたっては、担当窓口にご相談ください。

在宅医療との
連携をいっそ
う強化します

今回の病棟のあり方を検討するにあたって、「患者さんやご家族から代々木病院が何を期待されているの

か」を中心に議論を行いました。代々木病院や勤労会の診療所・訪問看護ステーションは地域の介護事業所とも連携して、24時間の在宅医療を通して「住み慣れた家での療養」を応援してまいります。

今回の医療「改革」は、国民の間に医療の格差を持ち込み、高齢者や社会的に弱い立場の人々を直撃する内容です。医療を良くするとりくみを今後も皆さんといっしょにがんばってまいります。

■入院患者さんのお楽しみ会 8月12日(土)午後、ボランティア募集。

手術台

2年越しの要請が実現した
渋谷区福祉保健部長との懇談会

▼居並ぶ5人の担当課長は、大きな権限を持つ福祉保健部長をチラ見しながら、「区民の介護実態の調査は計画しない」「医療の状況は区医師会と懇談している。それ以上つかむ必要はない」とけんもほろろに言い切った▼1時間と決められた「懇談」に集まってくれた二〇数人の渋谷区社会保険推進協議会の仲間。「区民を代表して来てるんだ。こっちを見て答えなさいよ」と思ったのは私だけではない▼担当課長が悪いわけではない。実際真摯に親身になって区民の声に取り組んでいる役人が大半だ。しかし大幅な値上げとなった「住民税」「国保料」「介護保険料」課税通知に苦情と抗議が殺到、その矢面にたつのも彼らである▼「若年者控除廃止、年金控除縮小、定率減税半減、そして国保料、介護保険料の値上げなど、高齢者とその家族が命を削って税金を払わねばならない実態の、どこを見て国は「公平」というのだろ。」(新)